

タイトル「**2024年度危機管理学部(公開用)**」、フォルダ「**実務経験のある教員による科目**」
シラバスの詳細は以下となります。



科目ナンバー	RMGT3361		
科目名	国際地域研究 1 (アジア・オセアニア)		
担当教員	川中 敬一		
対象学年	4年	開講学期	前期
曜日・時限	火 3		
講義室	1306	単位区分	選
授業形態	講義	単位数	2
科目大分類	専門科目		
科目中分類	専門展開科目		
科目小分類	共通学修科目		
科目の位置付け (開発能力)	<p>■ DPコード・学修のゴールを示すディプロマポリシーとの関連</p> <p>DP1-E 「学識・専門技能」専門分野にかかる理論知と実践知を獲得し利用することができる。</p> <p>DP2-A 「日本の精神文化を理解し多様な価値を受容する姿勢」地球的視点で物事を多面的に捉え、異文化との交流の重要性を認識するとともに、異文化との交流を積極的かつ多面的に行い、相互理解を促進し互恵関係を構築することができる。</p> <p>DP4-I 「理解力・分析力」文章表現、数値データを適切に扱いつつ、情報の収集と取捨選択、分析と加工を有効かつ円滑に行い、課題の解決につなげることができる。</p> <p>■ CRコード・学修を通じて開発するマインドセット・ナレッジ・スキルをコモンルーブリック(CR)との関連</p> <p>A1 グローバル感覚 - 40%</p> <p>E1 学識と専門技能 - 40%</p> <p>I1 理解・分析と読解 - 20%</p>		
教員の実務経験	<p>防衛省・海上自衛隊において30余年間勤務しました。主な勤務内容は、本省勤務(海上幕僚監部)、艦艇勤務(艦艇長、隊司令)、情報部署・機関及び研究・教育機関(幹部学校及び防衛大学校防衛学教育学群)をそれぞれ均等に経験しました。これらの職歴において、米国、東南アジア諸国、そして中国・台湾等のアジア・オセアニア諸国の人々と、共同訓練や戦略・情報交換・学術会議で直接接する機会を多く得ました。そこで痛感したことは、同じ現象・事象に接しても、各国の人々の理解や反応が全く異なることが多いという現実でした。この現実には、私を大いに戸惑わせるとともに、「なぜ?」という好奇心をかき立てました。幸い、業務命令による国内大学院留学における厳しい恩師からの指導により、歴史的淵源から経緯をたどることが、異文化に対する等身大の理解をするうえでの不可欠要件であることを思い知らされました。特に、米国人と中華文化圏の人々の思考・行動原理を理解するには、この歴史的な研究手法は不可欠であり、それが欠けている言説は、ほとんどが虚構であることも知りました。本講義では、就職採用試験で問われるような「ホットな事象・現象」の解説をから入り、その事象・現象に関わる当事者(国)の意図を看破し、将来予測をするための尺度を構築し、皆さんが、他国と接する際の原則的観察眼を修得することを目指します。</p> <p>なお、第3、4、9、10、11及び12回授業では、担当教員の国際会議、意見交換討論会、共同訓練参加等の実務経験を踏まえた内容を盛り込みます。</p>		
成績ターゲット区分	<p>■成績ターゲット</p> <p>3 発展期 ~ 4 定着期</p>		
科目概要・キーワード	<p>本講義は、アジア・オセアニア地域において生起している各種危機的現象の本質を看破する基盤的能力を修得することを目的とします。その際、地域内諸国特有の行動原理を近・現代史的淵源から理解し、その延長で現在生起している各種事象の将来的方向性を予測する尺度の構築を特に重視します。また、アジア・オセアニア地域において圧倒的影響力を保持する米国</p>		

	<p>と、東アジア、東南アジア及び南アジアに跨がる古くて新しい超大国である中国の動向を中心に、アジア・オセアニア地域における各種動向の全体的構造と潮流を把握する能力を涵養します。</p> <p>授業形態は講義形式により行います。なお、対応するコンピテンスに基づき効果的な授業方法として、又は各授業を補完・代替するためオンライン授業を一部取り入れる場合があります。</p> <p>■キーワード： 米国と中華国家、政治・軍事・経済・文化関係、歴史的淵源と経緯、日本の定位</p>
<p>授業の趣旨</p>	<p>■副題 米中関係を基軸とするアジア・オセアニアにおける危機事態の真髓に対する多面的理解</p> <p>■授業の目的 本講義は、4つの段階から構成されます。第1段階では、アジア・地域の全般的現況に関する知識を学びます。第1段階では、アジア・オセアニア地域の全般的現況に関する知識を学びます。その際、地勢（地理、気候）、政治、軍事、経済、文化（宗教、思想、言語）、民族、社会に関する多面的知識を網羅的に学ぶことにより、本地域に関する空間的認識を確立します。第2段階では、今日のアジア・オセアニアにおける危機的事象の淵源となっている近・現代史を学びます。その際、建国以前からの米国の対中国権益、アヘン戦争以降に中華国家が追求した理念形成、近代における英国等西洋諸国の動向を重点的に学ぶことにより、本地域の精神的・時間的認識を確立します。第3段階では、今日の米中両国の悪化する関係の真髓と、関連する本地域諸国の動向を学びます。そこから、本地域における危機的事象の空間的、精神的、時間的軸を交叉させた総体的な認識を確立します。第4段階では、以上の知識と認識を起点とするグローバルな視座、異文化への等身大の理解に基づくアジアの一国である日本の定位を考察し、日本にとってのアジア・オセアニアにおける危機へ接続する時事的事象の本質を測る尺度の構築を本講義の最終目的とします。</p> <p>■授業のポイント 本講義では、東アジア、東南アジア、南アジアを主体として取り上げます。単独の国家としては、中華国家（中華人民共和国及び中華民国）及び米国を主として扱い、他の国家や国際的組織は、副次的に扱います。</p> <p>本講義の第1段階では、メディア等が取り上げる事象を導入としますが、メディアも学界も、瞬間的、或いは、せいぜい数十年単位の時間的流れで各種事象を解説しています。しかし、本講義では、部于国の建国前後、中華国家の近・現代における経験から導かれる普遍の理念や価値観を明確にし、それらが眼前の事象といかに結び付いているかを考察することを重視します。つまり、このプロセスが、本講義のポイントとして位置付けられることとなります。</p>
<p>総合到達目標</p>	<p>■学生は、アジア・オセアニアにおける包括的現状を簡潔に説明することができる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学生は、アジア・オセアニアにおける主要な地名、地形・気象的特徴、宗教・思想・言語分布の実状を簡潔に説明することができる。（第1及び第2回） ・学生は、アジア・オセアニアにおける経済的構造と宗教・思想・言語・文化的特徴との関係を簡潔に説明することができる。（第3～第5回） <p>■学生は、歴史的経緯の帰結としての今日のアジア・オセアニアにおける各国家の国家建設や国際的組織の理念・目的を簡潔に説明することができる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学生は、アジアにおける近・現代史から、動揺しがたい米国の建国理念と対アジア観、そして中華国家の国家建設・防衛理念とを簡潔に説明することができる。（第6～第9回） ・学生は、近代における欧米諸国が作った負の遺産と、今日のアジア・オセアニアにおける危機的事象との因果関係を簡潔に説明することができる。（第6回） <p>■学生は、米中両国関係から、アジア・オセアニアにおける危機的事態に関する全体的構造を把握し、簡潔に説明することができる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学生は、今日の太平洋・インド洋地域で顕在化・潜在化している危機的事象の根幹の一側面を、米中対立・相互依存構造から、簡潔に説明することができる。（第10～第12回） ・学生は、台湾問題の本質を中華人民共和国と中華民国双方の立場から簡潔に説明することができる。（第13回） <p>■学生は、以上の学びから、日本として採るべき方向性を考案することができる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業内の学生間討論を通じて、学生は、主体的な米中両国に関する適正な向き合い方を考案することができる。（第14回）
<p>成績評価方法</p>	<p>■小テスト3回（45%）： 適用ルーブリック E1、A1 第6回、第10回及び第14回授業の冒頭15分間を使用して小テストを実施します。 （評価の観点）第1～第5回、第6～第9回及び第10～第13回の授業内容における知識の定着度を検証します。 （フィードバックの方法）第6、第10回授業時に手交にて、第15回授業までにClassroomにて採点結果を提示します。</p> <p>■学生間討論（20%）： 適用ルーブリック I1、A1 （評価の観点）第13回授業までの内容に基づき、後日提示するテーマについての学生間討論を通じて、知識の定着度と、それら知識の現実への適用を検証します。 （フィードバックの方法）授業の後半20分間で、教員からのコメントを提示します。</p>

	<p>■期末試験（35%）： 適用ルーブリック E1、A1、I1 （評価の観点）アジア・オセアニアに関する基本的な知識の定着度と、各学生が授業うい通じて得たアジア・オセアニア観が構築されているか否かを検証します。 （フィードバックの方法）採点後にClassroomを通じてコメントを付記して提示します。</p>								
履修条件	特にありません。								
履修上の注意点	<p>■本科目専用の「受講ノート」を必ず準備し、各授業ごとに持参してください。 ■各回授業の1～3日前に、Classroomに使用教材をアップロードしますので、それをプリントアウトして必ず授業時に持参してください。</p>								
授業内容	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回</th> <th>内容</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td> <p>①授業テーマ ・ガイダンス ・イントロダクション</p> <p>②授業概要 ・ガイダンス（30分間）： 授業の全体テーマ、授業の進め方、成績評価の方法、教材配布・小テスト・学生討論・期末テストの実施要領を確認します。 ・イントロダクション（60分間）： アジア・オセアニアの範囲、主要地名、地形、気候分布、海洋状況、民族・言語分布、宗教・思想分布を概観します。受講後、学生はアジア・オセアニアの空間的イメージを構築し、以後の講義内容の理解を容易にすることができます。（E1、A1）</p> <p>③予習（120分） ・事前にClassroomにアップロードされた教材を読み、同時に、受講ノートを準備します。</p> <p>④復習（120分） ・教材及び講義ノートを通読し、授業中に配布する「白地図」に所要事項を記入して、空間的イメージを定着します。</p> </td> </tr> <tr> <td>2</td> <td> <p>①授業テーマ アジア・オセアニアの現況</p> <p>②授業概要 ・アジア・オセアニアにおける近年の全般的状況を概観します。（E1、A1） ・主要国の政治体制、経済状況、各国国内外危機的事象を概観します。（E1、A1） ・地域内国家間・国際的組織間の政治的・軍事的・経済的関係を概観します。（E1、A1） ・受講後、学生は、アジア・オセアニアに関する現況を説明できるようになります。（E1、A1）</p> <p>③予習（120分） ・事前にClassroomにアップロードされた教材を読むと同時に、市販の世界地図帳で地名を確認したうえで疑問点を受講ノートにメモします。</p> <p>④復習（120分） ・教材及び講義ノートを通読し、授業中に配布する「白地図」に所要事項を記入します。</p> </td> </tr> <tr> <td>3</td> <td> <p>①授業テーマ 北東アジア地域の全般的現況</p> <p>②授業概要 ・北東アジア諸国の地理、政治体制、経済構造・規模、交通・軍事、治安、文化の現況を担当教員の実務経験（国際会議・意見交換討論会、共同訓練参加等）を踏まえた知見を交えて概観します。（E1、A1） ・中国を基軸として、中国と北東アジア諸国及び米国との相互依存・対立関係を概観します。（E1、A1） ・受講後、学生は、北東アジア諸国の概況と中国とそれら諸国及び米国との相互依存・対立関係を説明できるようになります。（E1、A1）</p> <p>③予習（120分） ・事前にClassroomにアップロードされた教材を読むと同時に、市販の世界地図帳で地名を確認したうえで疑問点を受講ノートにメモします。</p> <p>④復習（120分）</p> </td> </tr> </tbody> </table>	回	内容	1	<p>①授業テーマ ・ガイダンス ・イントロダクション</p> <p>②授業概要 ・ガイダンス（30分間）： 授業の全体テーマ、授業の進め方、成績評価の方法、教材配布・小テスト・学生討論・期末テストの実施要領を確認します。 ・イントロダクション（60分間）： アジア・オセアニアの範囲、主要地名、地形、気候分布、海洋状況、民族・言語分布、宗教・思想分布を概観します。受講後、学生はアジア・オセアニアの空間的イメージを構築し、以後の講義内容の理解を容易にすることができます。（E1、A1）</p> <p>③予習（120分） ・事前にClassroomにアップロードされた教材を読み、同時に、受講ノートを準備します。</p> <p>④復習（120分） ・教材及び講義ノートを通読し、授業中に配布する「白地図」に所要事項を記入して、空間的イメージを定着します。</p>	2	<p>①授業テーマ アジア・オセアニアの現況</p> <p>②授業概要 ・アジア・オセアニアにおける近年の全般的状況を概観します。（E1、A1） ・主要国の政治体制、経済状況、各国国内外危機的事象を概観します。（E1、A1） ・地域内国家間・国際的組織間の政治的・軍事的・経済的関係を概観します。（E1、A1） ・受講後、学生は、アジア・オセアニアに関する現況を説明できるようになります。（E1、A1）</p> <p>③予習（120分） ・事前にClassroomにアップロードされた教材を読むと同時に、市販の世界地図帳で地名を確認したうえで疑問点を受講ノートにメモします。</p> <p>④復習（120分） ・教材及び講義ノートを通読し、授業中に配布する「白地図」に所要事項を記入します。</p>	3	<p>①授業テーマ 北東アジア地域の全般的現況</p> <p>②授業概要 ・北東アジア諸国の地理、政治体制、経済構造・規模、交通・軍事、治安、文化の現況を担当教員の実務経験（国際会議・意見交換討論会、共同訓練参加等）を踏まえた知見を交えて概観します。（E1、A1） ・中国を基軸として、中国と北東アジア諸国及び米国との相互依存・対立関係を概観します。（E1、A1） ・受講後、学生は、北東アジア諸国の概況と中国とそれら諸国及び米国との相互依存・対立関係を説明できるようになります。（E1、A1）</p> <p>③予習（120分） ・事前にClassroomにアップロードされた教材を読むと同時に、市販の世界地図帳で地名を確認したうえで疑問点を受講ノートにメモします。</p> <p>④復習（120分）</p>
回	内容								
1	<p>①授業テーマ ・ガイダンス ・イントロダクション</p> <p>②授業概要 ・ガイダンス（30分間）： 授業の全体テーマ、授業の進め方、成績評価の方法、教材配布・小テスト・学生討論・期末テストの実施要領を確認します。 ・イントロダクション（60分間）： アジア・オセアニアの範囲、主要地名、地形、気候分布、海洋状況、民族・言語分布、宗教・思想分布を概観します。受講後、学生はアジア・オセアニアの空間的イメージを構築し、以後の講義内容の理解を容易にすることができます。（E1、A1）</p> <p>③予習（120分） ・事前にClassroomにアップロードされた教材を読み、同時に、受講ノートを準備します。</p> <p>④復習（120分） ・教材及び講義ノートを通読し、授業中に配布する「白地図」に所要事項を記入して、空間的イメージを定着します。</p>								
2	<p>①授業テーマ アジア・オセアニアの現況</p> <p>②授業概要 ・アジア・オセアニアにおける近年の全般的状況を概観します。（E1、A1） ・主要国の政治体制、経済状況、各国国内外危機的事象を概観します。（E1、A1） ・地域内国家間・国際的組織間の政治的・軍事的・経済的関係を概観します。（E1、A1） ・受講後、学生は、アジア・オセアニアに関する現況を説明できるようになります。（E1、A1）</p> <p>③予習（120分） ・事前にClassroomにアップロードされた教材を読むと同時に、市販の世界地図帳で地名を確認したうえで疑問点を受講ノートにメモします。</p> <p>④復習（120分） ・教材及び講義ノートを通読し、授業中に配布する「白地図」に所要事項を記入します。</p>								
3	<p>①授業テーマ 北東アジア地域の全般的現況</p> <p>②授業概要 ・北東アジア諸国の地理、政治体制、経済構造・規模、交通・軍事、治安、文化の現況を担当教員の実務経験（国際会議・意見交換討論会、共同訓練参加等）を踏まえた知見を交えて概観します。（E1、A1） ・中国を基軸として、中国と北東アジア諸国及び米国との相互依存・対立関係を概観します。（E1、A1） ・受講後、学生は、北東アジア諸国の概況と中国とそれら諸国及び米国との相互依存・対立関係を説明できるようになります。（E1、A1）</p> <p>③予習（120分） ・事前にClassroomにアップロードされた教材を読むと同時に、市販の世界地図帳で地名を確認したうえで疑問点を受講ノートにメモします。</p> <p>④復習（120分）</p>								

	<ul style="list-style-type: none"> ・教材及び講義ノートを通読し、授業中に配布する「白地図」に所要事項を記入します。
4	<p>①授業テーマ 東南アジア地域の全般的現況</p> <p>②授業概要</p> <ul style="list-style-type: none"> ・東南アジア諸国の地理、政治体制、経済構造・規模、交通・軍事、治安、文化の現況を担当教員の実務経験（国際会議・意見交換討論会、共同訓練参加等）を踏まえた知見を交えて概観します。（E1、A1） ・中国を基軸として、中国と東南アジア諸国及び米国との相互依存・対立関係を概観します。（E1、A1） <p>・受講後、学生は、東南アジア諸国の概況と中国とそれら諸国及び米国との相互依存・対立関係を説明することができるようになります。（E1、A1）</p> <p>③予習（120分）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・事前にClassroomにアップロードされた教材を読むと同時に、市販の世界地図帳で地名を確信したうえで疑問点を受講ノートにメモします。 <p>④復習（120分）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教材及び講義ノートを通読し、授業中に配布する「白地図」に所要事項を記入します。
5	<p>①授業テーマ 南アジア地域の全般的現況</p> <p>②授業概要</p> <ul style="list-style-type: none"> ・南アジア諸国の地理、政治体制、経済構造・規模、交通・軍事、治安、文化の現況を概観します。（E1、A1） ・インドを基軸として、インドと中国及び米国との相互依存・対立関係を概観します。（E1、A1） <p>・受講後、学生は、南アジア諸国の概況と中国とそれら諸国及び米国との相互依存・対立関係を説明することができるようになります。（E1、A1）</p> <p>③予習（120分）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・事前にClassroomにアップロードされた教材を読むと同時に、市販の世界地図帳で地名を確信したうえで疑問点を受講ノートにメモします。 <p>④復習（120分）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教材及び講義ノートを通読し、授業中に配布する「白地図」に所要事項を記入します。
6	<p>①授業テーマ 近代における欧米国家とアジアとの闘争</p> <p>②授業概要</p> <ul style="list-style-type: none"> ・欧米のアジア進出の動機と、「グレート・ゲーム」が今日のアジアにおける各危機的事象（領有権問題、経済構造、国内紛争等）との関係を考察します。（E1、A1、I1） ・受講後、近代における欧米諸国の侵略活動が今日のアジアにおける各危機的事象の主因の1つであることを学生は説明することができるようになります。（E1、A1、I1） ・授業の冒頭15分間で、第5回授業までの基本的知識を定着させるための小テストを実施します。小テストの正解は、授業後にClassroomを通じて配布しますので、それを参考にして知識の定着を図ります。（E1、A1） <p>③予習（120分）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・事前にClassroomにアップロードされた教材を読み、疑問点を受講ノートにメモします。 <p>④復習（120分）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教材及び講義ノートを通読し、授業内容に対する新たな発見を記述します。
7	<p>①授業テーマ 米国の対アジア史</p> <p>②授業概要</p>

	<ul style="list-style-type: none"> ・米国の建国以前からの国内外政策史を概観し、同国の一貫した対アジア観を考察します。(E1、A1、I1) ・受講後、米国の今日においても潜在的に追求するアジア利権を対中国観を基軸に進められている事実を学生は説明することができるようになります。(E1、A1、I1) <p>③予習(120分)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・事前にClassroomにアップロードされた教材を読み、疑問点を受講ノートにメモします。 <p>④復習(120分)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教材及び講義ノートを通読し、授業内容に対する新たな発見を記述します。
8	<p>①授業テーマ 近代中華革命と中華国家の理念</p> <p>②授業概要</p> <ul style="list-style-type: none"> ・19世紀以降の中華国家(清国、中華民国、中華人民共和国)が経験した対内外闘争の歴史を概観し、その流れの中で、中華世界のエリート、庶民が何を指そうとして奮闘したのかを考察します。(E1、A1、I1) ・受講後、近代における中華国家の改革・革命の一貫して追及された理念と、今日の中華人民共和国と中華民国の行動原理を学生は説明することができるようになります。(E1、A1、I1) <p>③予習(120分)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・事前にClassroomにアップロードされた教材を読み、疑問点を受講ノートにメモします。 <p>④復習(120分)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教材及び講義ノートを通読し、授業内容に対する新たな発見を記述します。
9	<p>①授業テーマ 近代中華国家の国家建設構想</p> <p>②授業概要</p> <ul style="list-style-type: none"> ・近・現代中華国家が一貫して追及してきた理念の基盤となる改革・革命思想の要旨を概観し、そこから導かれる中華国家が形成した秩序観と価値観を担当教員の実務経験(国際会議、米軍・人民解放軍・国家安全部との意見交換討論会、共同訓練参加等)を踏まえた知見を交えて考察します。(E1、A1、I1) ・受講後、現代中華国家の理念成就までの過程における今日の各種事象が占める位置を学生は説明することができるようになります。(E1、A1、I1) <p>③予習(120分)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・事前にClassroomにアップロードされた教材を読み、疑問点を受講ノートにメモします。 <p>④復習(120分)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教材及び講義ノートを通読し、授業内容に対する新たな発見を記述します。
10	<p>①授業テーマ 今日の米中対立問題の実相</p> <p>②授業概要</p> <ul style="list-style-type: none"> ・米国の不変の対中観と中華国家の不変の理念との相互関係を概観し、各時点における3者の思惑を担当教員の実務経験(国際会議、米軍・人民解放軍・国家安全部との意見交換討論会、共同訓練参加等)を踏まえた知見を交えて考察します。(E1、A1、I1) ・受講後、米国と中華国家間の対立・協調関係におけるそれぞれの思惑(次のステップ)を予測する尺度を学生は構築することができます。(E1、A1、I1) ・授業の冒頭15分間で、第5回授業までの基本的知識を定着させるための小テストを実施します。小テストの正解は、授業後にClassroomを通じて配布しますので、それを参考にして知識の定着を図ります。(E1、A1) <p>③予習(120分)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・事前にClassroomにアップロードされた教材を読み、疑問点を受講ノートにメモします。

	<p>④復習（120分）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教材及び講義ノートを通読し、授業内容に対する新たな発見を記述します。
11	<p>①授業テーマ 今日の中華国家と域内諸国関係</p> <p>②授業概要</p> <ul style="list-style-type: none"> ・主として中国と東南アジア諸国及び中国とインドの関係を概観し、そこに所在する対立要因を歴史的経緯と担当教員の実務経験（国際会議、米軍・人民解放軍・国家安全部との意見交換討論会、共同訓練参加等）を踏まえた知見を交えて踏まえて考察します。（E1、A1、I1） ・受講後、域内諸国と中華国家間の対立・協調関係におけるそれぞれの思惑（次のステップ）を予測する尺度を学生は構築することができます。（E1、A1、I1） <p>③予習（120分）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・事前にClassroomにアップロードされた教材を読み、疑問点を受講ノートにメモします。 <p>④復習（120分）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教材及び講義ノートを通読し、授業内容に対する新たな発見を記述します。
12	<p>①授業テーマ 今日の中華国家と海洋問題</p> <p>②授業概要</p> <ul style="list-style-type: none"> ・近・現代中華国家にとっての海洋が有する不変的意義と可変的意義を担当教員の実務経験（国際会議、米軍・人民解放軍・国家安全部との意見交換討論会、共同訓練参加等）を踏まえた知見を交えて考察します。（E1、A1、I1） ・現代中華国家のシーパワー建設を概観し、そこに所在する意義を考察します。（E1、A1、I1） ・受講後、中華国家にとっての海洋が有する多面的意義とシーパワーの重要性を学生は説明することができるようになります。（E1、A1、I1） <p>③予習（120分）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・事前にClassroomにアップロードされた教材を読み、疑問点を受講ノートにメモします。 <p>④復習（120分）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教材及び講義ノートを通読し、授業内容に対する新たな発見を記述します。
13	<p>①授業テーマ 台湾問題の本質</p> <p>②授業概要</p> <ul style="list-style-type: none"> ・中華国家にとっての「統一 = 分裂阻止」という政治道徳を概観し、中国が台湾統一に拘泥する意味を担当教員の実務経験（国際会議、米軍・人民解放軍・国家安全部との意見交換討論会、共同訓練参加等）を踏まえた知見を交えて考察します。（E1、A1、I1） ・受講後、中国にとっての台湾問題の核心と、そこに介在してくる米国の定位を学生は説明することができるようになります。（E1、A1、I1） <p>③予習（120分）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・事前にClassroomにアップロードされた教材を読み、疑問点を受講ノートにメモします。 <p>④復習（120分）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教材及び講義ノートを通読し、授業内容に対する新たな発見を記述します。
14	<p>①授業テーマ アジアにおける日本</p> <p>②授業概要</p> <ul style="list-style-type: none"> ・第13回授業時に提示するテーマに沿った内容と要領に従った学生間討論を実施します。 ・討論参加後、アジア・オセアニアをめぐる包括的構造とその遠因、及びアジアに所在する日本の模索すべき方向性を学生は構築することができます。（E1、A1、I1） ・授業終了の20分前から、担当教員の実務経験（国際会議、米軍・人民解放軍・国家

	<p>安全部との意見交換討論会、共同訓練参加等)を踏まえた知見を交えた講評を行います。(E1、A1)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業の冒頭15分間で、第5回授業までの基本的知識を定着させるための小テストを実施します。小テストの正解は、授業後にClassroomを通じて配布しますので、それを参考にして知識の定着を図ります。(E1、A1) <p>③予習(120分)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・第1回～第13回授業で配布された教材を起点として、第13回授業時に提示されるテーマに沿って、自己の見解と論理構成を受講ノートに記述して第14回授業に臨みます。 <p>④復習(120分)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・受講ノートに記述した学生間討論における他学生の見解を通読し、予習で考案した自己の見解に修正を加えます。(E1、A1、I1)
	<p>①授業テーマ 総括(期末試験)</p> <p>②授業概要</p> <ul style="list-style-type: none"> ・第1回～第13回までの基本的知識の定着度測定(選択式)と、第14回復習で修正した自己の見解(記述式)を問う総合的試験を実施します。 ・受講後、学生は、アジア・オセアニアで生起している事象・現象の実相を歴史的話法をもって説明することができるようになります。(E1、A1、I1) <p>③予習(120分)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・第14回までの教材、受講ノートを通読し、知識と思考結果を整理します。 <p>④復習</p> <ul style="list-style-type: none"> ・採点后、各学生にClassroomにより通知される採点結果を基に、科目全体を通じて得た新たな発見を受講ノートに記述して、知識の定着と思考の再整理を図ります。
<p>関連科目</p>	<p>「テロリズム論RMGT3526(1年次後学期配当)」、「安全保障論1(国際安全保障論)RMGT3551(2年次前学期配当)」、「安全保障論2(国家安全保障論)RMGT3553S(2年次後学期配当)」、「ストラテジーRMGT3555(2年次後学期配当)」、「外交史RMGT3556(2年次後学期配当)」、「防衛政策RMGT3557(3年次前学期配当)」</p>
<p>教科書</p>	<p>特にありませんが、市販の世界地図帳を準備してください。講義で使用する教材は、教員からClassroomを通じて事前に配布します。</p>
<p>参考書・参考URL</p>	<p>第1回授業時に、リストを配布します。</p>
<p>連絡先・オフィスアワー</p>	<p>■連絡先 kawanaka.keiichi@nihon-u.ac.jp</p> <p>■オフィスアワー 前学期：火曜5限。事前にメールにて、時間・場所の調整を教員と行ってください。</p>
<p>研究比率</p>	<p>■危機管理学領域との対応 災害マネジメント10%、パブリックセキュリティ40%、グローバルセキュリティ50%、情報セキュリティ0%</p> <p>■危機管理と法学とのバランス 危機管理80%、法学20%</p>

